

事業評価票

141	都心と臨海副都心とを結ぶBRT整備事業 (都市整備局都市基盤部／一般会計)	事業開始	平成 27 年度
		事業終了予定	平成 — 年度

【局評価】

1 どのような経緯で事業を始めたか、何をを目指すのか	
<p>○ 臨海部は、MICEの誘致や国際観光機能の強化などにより、交通需要が大きく増えることが見込まれる一方で、勝どき地区など、鉄道へのアクセスが不便な地域が存在している。そのため、既存の交通不便地域を解消するとともに、増加する需要に応じた柔軟な運行が可能な交通システムの導入が必要である。</p> <p>○ 都心から勝どきを經由して臨海副都心に至る地域において、恒常的な需要に対応するため、環状2号線を中心として、BRTを導入する。導入にあたっては、燃料電池バスや停留施設に正確に停車するシステムなど、最先端技術の導入を目指していく。</p>	
根拠法令等	

2 どのように取り組み、どのような成果があったか	
<p>○ 平成26年8月に、将来予想される交通需要に適した、中規模な公共交通機関の整備に向けた考え方を示した「基本方針」を策定した。同年10月には、計画の具体化を図るため事業協力者を公募により選定し、導入する新たな交通機関としてBRTを決定した。</p> <p>○ 27年4月に、運行・停留施設の考え方やルート案などをとりまとめた「基本計画」を策定後、運行事業者の公募を行い、外部有識者から構成する審査委員会の審査を経て、同年9月に運行事業者として京成バスを選定した。</p> <p>○ 27年11月に京成バスと「基本協定」を締結した。今後、運行事業者と協力し、BRT導入に向けた検討を進めていく。</p>	

【財務局評価】

3 どのような課題や問題点があったか	
<p>○ 選手村の後利用をはじめとした東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする開発需要等、恒常的な需要に対応するとともに、環境にも配慮した中規模な交通機関の整備が必要である。</p>	

4 局として、事業をどうしていきたいか					
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他		
<p>○ 平成27年度内に、燃料電池バスの導入計画や停留施設に正確に停車するシステムなどを盛り込んだ、事業計画を策定する。</p> <p>○ 東京2020大会の象徴的な交通機関として、31年度のBRT運行開始に向け、必要なインフラ整備や関係者との調整などを着実に進めていく。</p>					
歳入	26年度決算額	— 千円	歳出	26年度決算額	— 千円
	27年度予算額	— 千円		27年度予算額	25,845 千円
	28年度見積額	— 千円		28年度見積額	120,620 千円

5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか	
<p>○ BRTの整備は、東京2020大会関連需要を見据えて、増加する需要に対応できる交通システムとして着実な整備を進めていくことが必要である。</p>	

6 28年度予算で、どのように対応したか			
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他
<p>○ 平成31年度の運行開始に向け、着実な整備を進める必要があることから、見積額のとおり計上する。</p>			
歳入	28年度予算額	— 千円	
歳出	28年度予算額	120,620 千円	